



注力分野における取り組み (自動運転)

武内 裕嗣

モビリティシステム事業グループ



1.

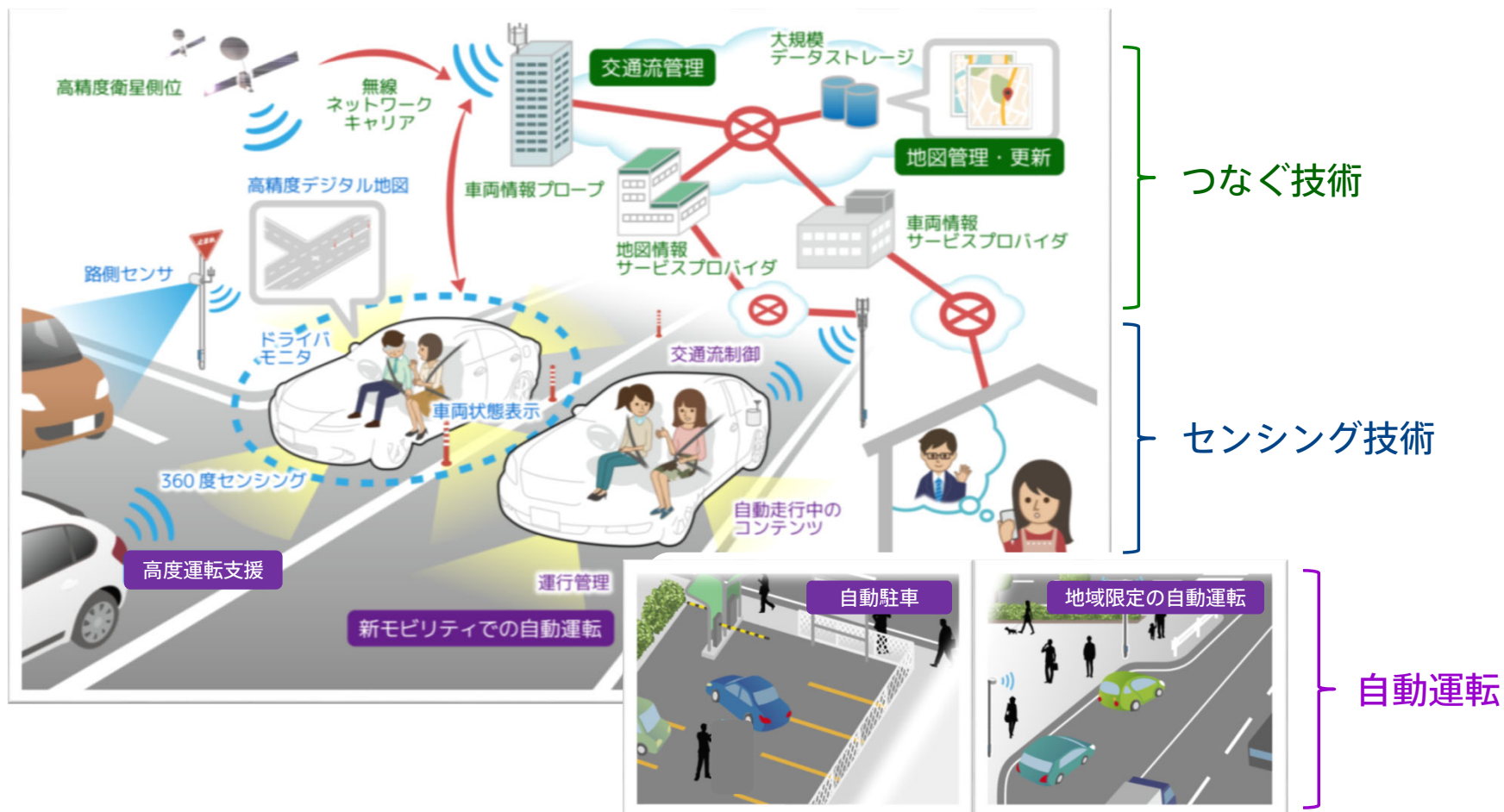
目指す姿

モビリティ社会の将来図



カーエレクトロニクス技術 と IT技術を融合し、社会課題を解決

デンソーが考える2025年の自動運転



つながり・センシング技術により自動運転が実現され、新しいモビリティ社会の核に

2.

目標達成に向けた取り組み

- ・ 自動運転
- ・ コックピットシステム

実現力（人の力×コア技術）



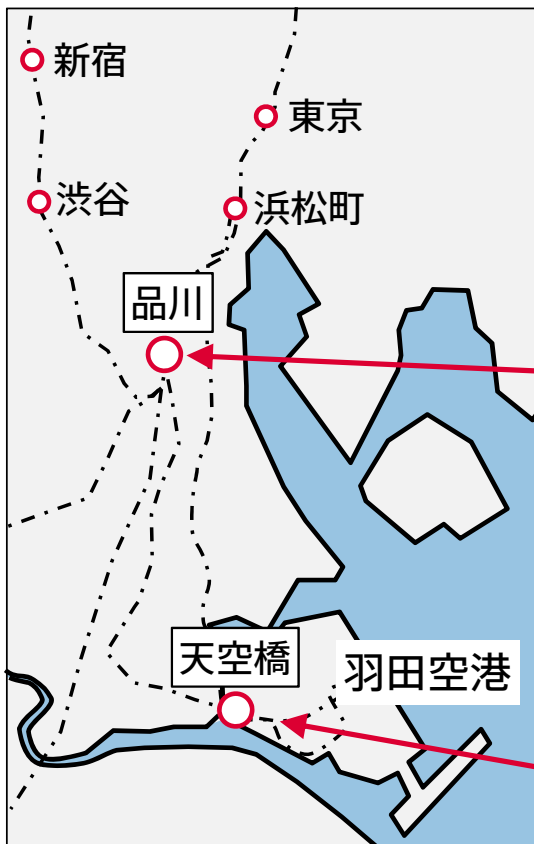
品質と信頼性の高い技術力で「自動運転システム」を実現

自動運転システムの実現に向けた取り組み

	予防安全	ADAS/AD Lv.2/3	限定区域AD Lv.4	自動駐車
乗用車	普及期 2017年～  ・衝突回避支援ブレーキ ・アダプティブクルーズコントロール ・オートハイビーム ・車線逸脱防止支援 ・標識認識	自専道 Lv.2,3 普及期 2020年～  一般道 Lv.2,3 普及期 20年代前半～ 		完全自動駐車 バレーパーキング 普及期 2020年～ 
商用車 (トラック)	普及期 2020年～ 	自専道Lv.2,3 		
シェアード (タクシー/ 小型バス)		限定一般道Lv.2～4 導入期 2018年～ 普及期 2020年代～  	限定区域Lv.4 導入期 2020年～ 普及期 2020年代半ば～  	

東京における先行開発拠点の開設 ー新たな価値創造に向けた挑戦ー

提供価値：交通事故のない安全な社会と快適で自由な移動の実現



STEP 1

お客様やパートナーとの共創により、先端技術・先進モビリティシステムの企画・開発・実証を加速させ、先進モビリティシステムの早期市場投入

2018年4月
Global R&D Tokyo 開設



STEP 2

- ・試験車両開発と公道実証を東京地区で実施
- ・大田区のモノづくり企業など、様々な企業との連携

2020年6月
羽田空港跡地第1ゾーンに、テスト路を備えた試験車両の開発棟とオフィスを開設

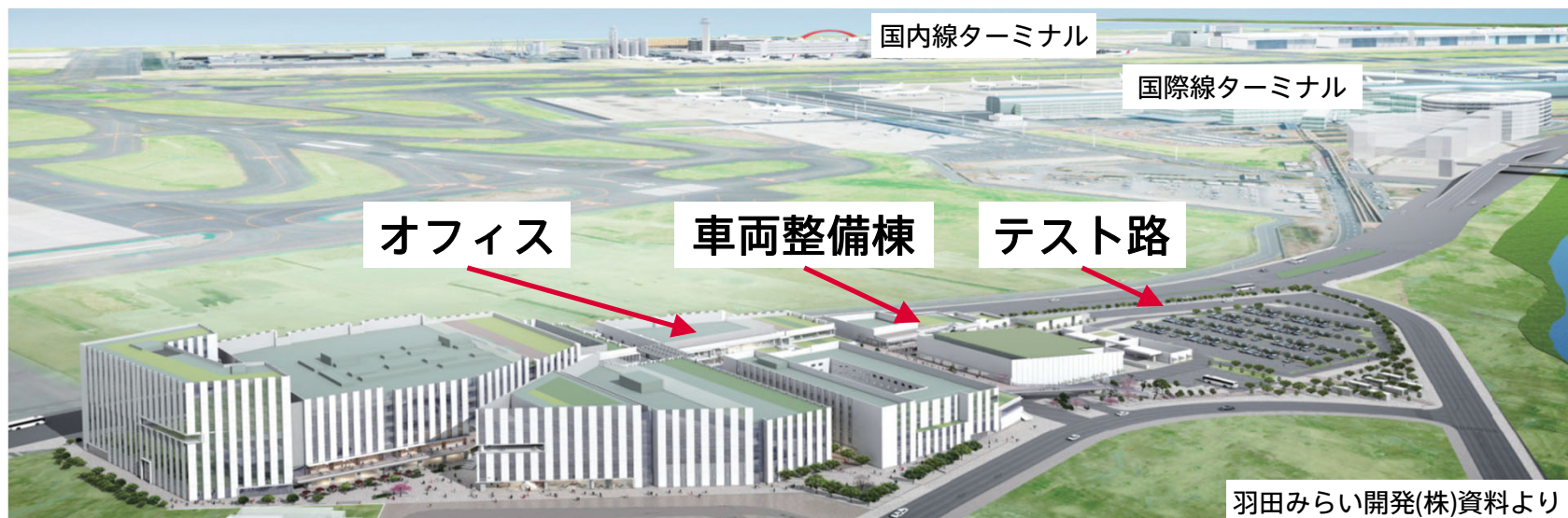
企画・研究開発から試作・実証までを東京エリアで完結

Global R&D Tokyo 概要



設 立	2018年4月
場 所	東京都港区港南1-8-15 Wビル 16F, 17F
従業員数	270 名（2018年12月時点）
主要機能	高度運転支援、自動運転、コネクティッド領域の研究開発

羽田 試験車両の整備棟とオフィス概要

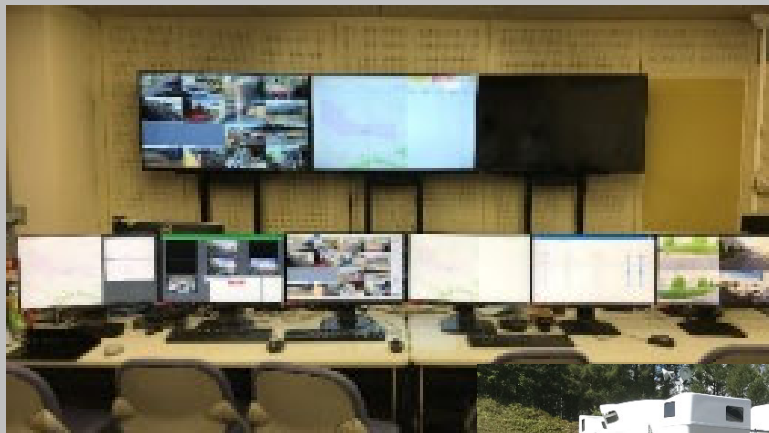


設 立	2020年6月（予定）
場 所	東京都大田区羽田空港一丁目及び羽田空港二丁目の各一部
従業員数	約200 名（開設時見込み）
主要機能	自動運転技術の試作開発、車両実証

ADAS・AD先行開発

ADシステムパッケージの開発

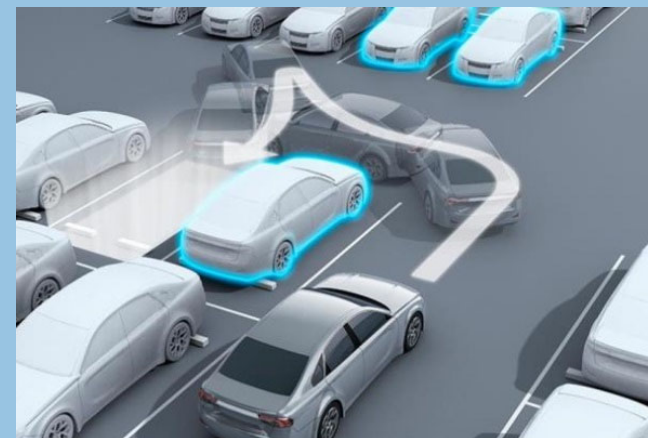
ADセンター



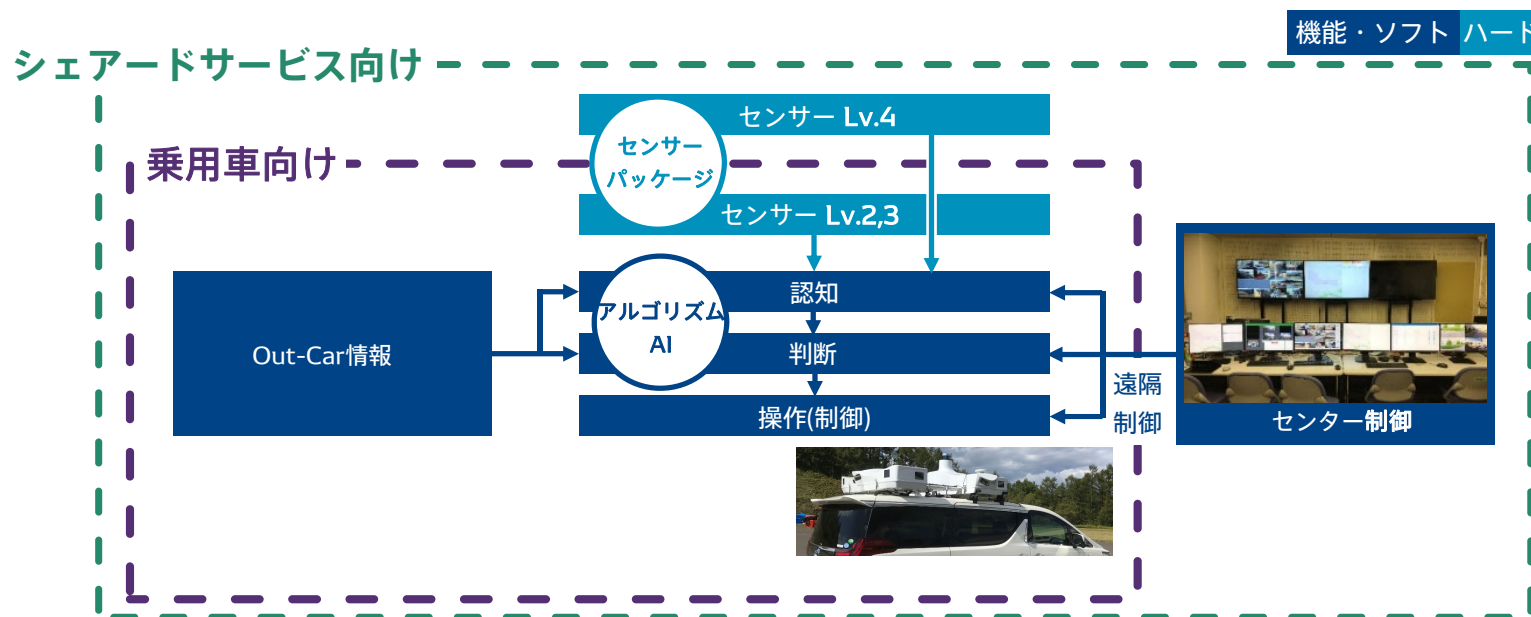
ADセンサーキット



自動駐車システムの開発



ADAS・AD先行開発：システムパッケージの企画・開発

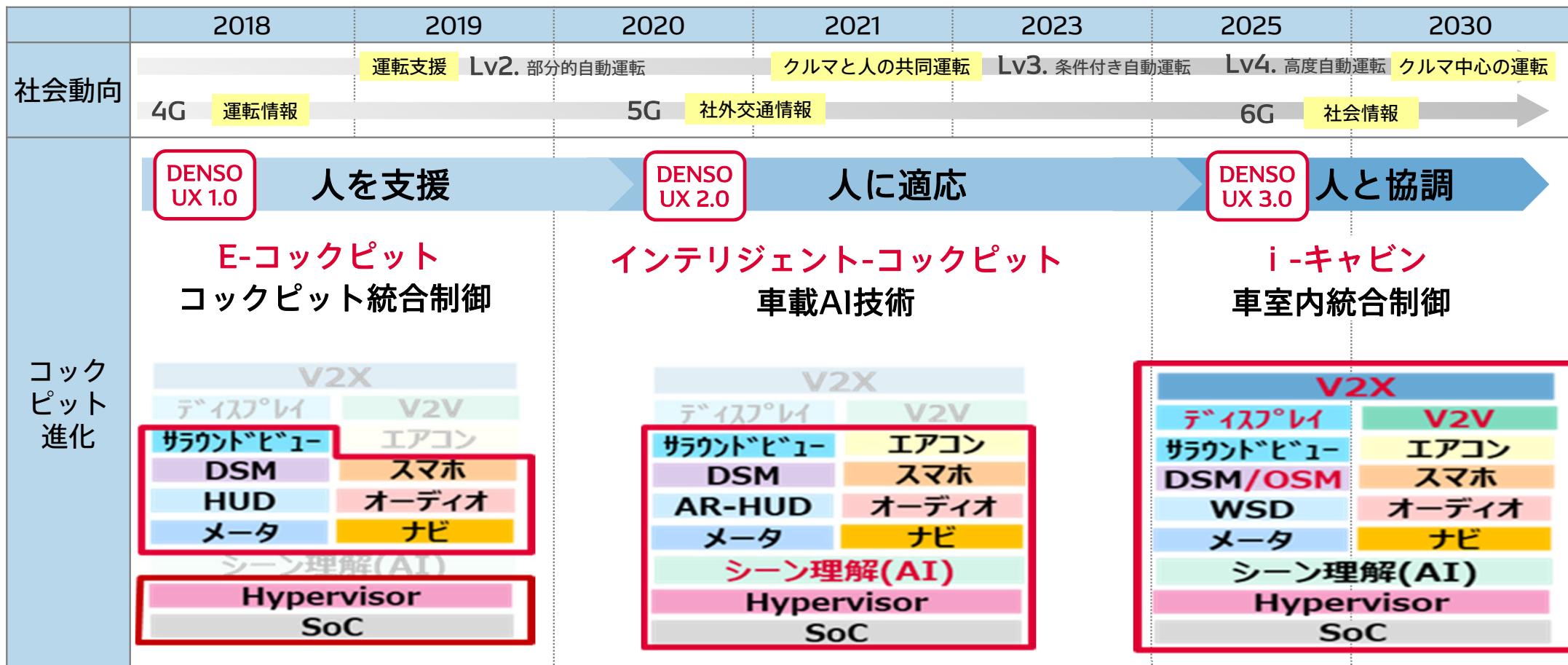


ADシステムパッケージ先行開発

- ・ センサー開発
- ・ 認知・判断のアルゴリズム開発
- ・ AI開発

高度なセンサー、センター制御によりシェアードサービス向けLv.4の実現を加速

コックピットシステムロードマップ



クルマの進化にあわせ、人に寄り添ったコックピットシステムを提供

空調技術とHMI技術との連携（熱コラボレーション） -新たな価値創造に向けた挑戦-

【i-キャビン開発事例】

新時代に相応しいコックピット

- ・ 視界・足元広々、薄型インパネ
- ・ 先進の表示デバイスと両立

自動運転時代を見据えた安心空間

- ・ ドライバ状態推定（眠気、漫然）と、覚醒システム



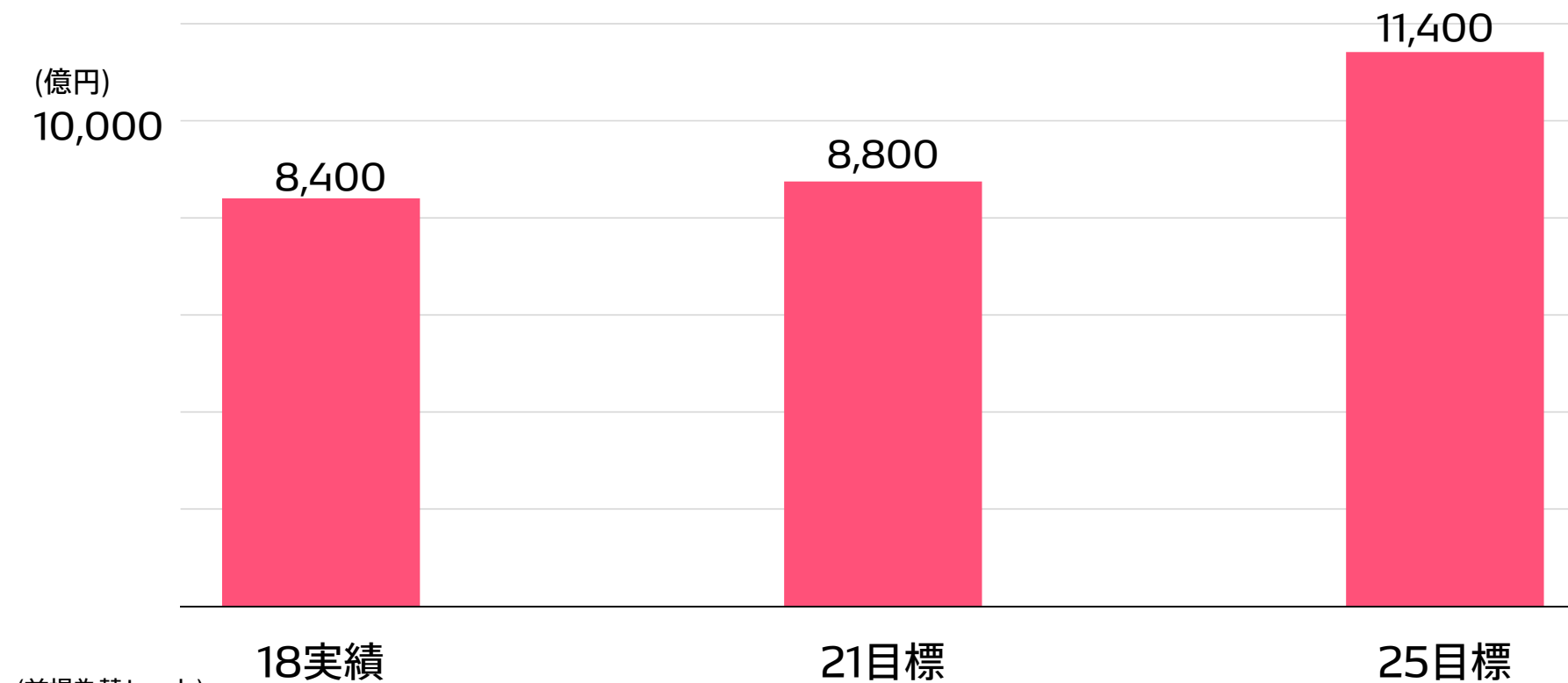
CID : Center Info-Display
HVAC : Heating, Ventilation, & Air-Conditioner
DSM : Driver Status Monitor

デンソーが保有する空調技術とHMI技術の融合

3.

成長目標

モビリティシステム事業 売上目標：2025年



USD	111	100	100
EUR	128	120	120

自動運転普及への貢献を通じて、25年1.1兆円を目指す（18年度比 約1.4倍）



人とクルマと社会の調和（HARMONY）による 「Quality of Mobility」の実現 ～すべての人に移動のよろこびを～

DENSO

Crafting the Core